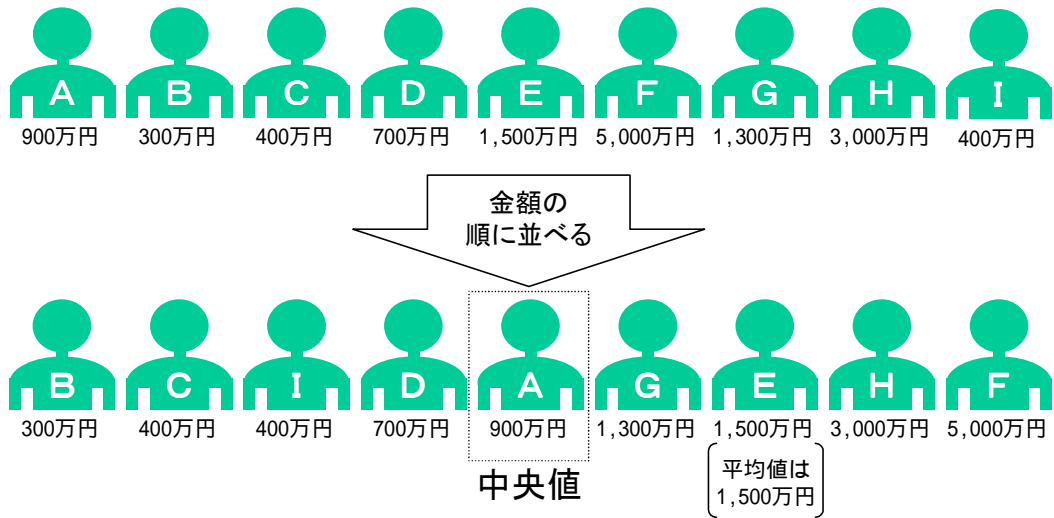


【BOX】平均値と中央値

金融資産保有額の平均値が 1,422 万円と聞くと、多くの世帯は実感とかけ離れた印象（「自分はそんなに多くの貯蓄を持っていない」）を持つと思われる。これは、平均値が少数の高額資産保有世帯によって、引き上げられているためである。例えば、10 世帯のうち 9 世帯が 100 万円を持っていて、残りの 1 世帯が 1 億円を持っている場合には、平均値が 1,090 万円となってしまう。10 世帯のうち 9 世帯は、平均値 1,090 万円と聞いて、その値に驚くだろう。今回調査では、保有世帯 3,472 世帯のうち約 6 割が平均値よりも少ない保有額となっている。

こうした平均値の欠点を補うために、ここでは中央値を用いて平均的な家計像を捉える。中央値とは、調査対象世帯を保有額の少ない順（あるいは多い順）に並べたとき中位に位置する世帯の金融資産保有額である。中央値（今回は 833 万円）では、保有世帯のちょうど半分が自分の貯蓄額よりも多くなり、もう半分が自分の貯蓄額よりも少なくなる。したがって、中央値は世帯全体の実感により近い数字になると考えられる。



平成 14 年における金融資産保有額の分布は、以下のとおりとなっている。

